

ADPISA 2026年度 シラバス

■ 基本情報

科目名	インテントAIで変化しながら価値を創造する情報システム	
科目番号	158	
担当講師	松永エリック・匡史	
分類	選択	
科目総時間	15	
対面/OL 日数	1日	

■ 科目の説明

授業の概要	本講座では、生成AI時代における情報システムの役割を、単なる業務効率化や自動化の道具としてではなく、「人の意図=インテント」を起点に価値を創造し続ける仕組みとして捉え直します。従来の情報システムは、要件を定義し、仕様に落とし込み、安定的に運用することを重視してきました。しかし、変化の激しい時代においては、最初に決めた仕様を守るだけでは十分ではありません。重要なのは、顧客・社員・社会の変化する意図を読み取り、AIと共に学びながら、価値そのものを更新し続けることです。本講座では、インテントAIの考え方を基盤に、次世代の情報システム構想、業務変革、顧客体験、組織変革を統合的に考えます。講義だけでなく、ワークショップを通じて、自社や自身の現場におけるインテントを発見しAIを活用した価値創造型システムの構想へと具体化します。
特色とメリット	本講座の特色は、AIを技術論だけで扱わず、「人は何を望んでいるのか」「組織はどのような価値を生み出すべきか」というインテントから情報システムを再構想する点にあります。AI導入は、ともするとツール選定や業務効率化に偏りがちです。しかし、本当に重要なのは、AIによって何を変え、誰にどのような価値を届けるのかを明確にすることです。本講座では、コンサルティングの実務視点、DXの現場感、アーティスト思考による創造的発想を組み合わせ、受講者自身が「変化しながら価値を創造する仕組み」を描けるようになります。ワークショップでは、自社課題を題材に、インテントの発見、価値仮説の設定、AI活用シナリオ、情報システム構想までを段階的に整理します。受講後には、単なるAI活用品ではなく、現場で説明・提案・実践につなげられる構想の原型を持ち帰ることができます。
学習目標	本講座の学習目標は、第一に、インテントAIの基本概念を理解し、従来型の情報システムやDXとの違いを説明できるようになることです。第二に、顧客・社員・組織・社会の中にある潜在的な意図や予兆を読み取り、価値創造の起点として整理できるようになることです。第三に、AIを単なる効率化ツールではなく、変化を学習し、意思決定や体験価値を高めるパートナーとして位置づけられるようになります。第四に、自社や自身の業務における課題を題材に、インテントを起点とした情報システム構想を描けるようになります。最終的には、仕様をこなす人材ではなく、変化を読み取り、AIと共に価値を更新し続ける人材として、次世代の情報システム構想・推進する視座を獲得することを目指します。
受講の前提条件	本講座では、高度なプログラミング知識やAI開発経験は必須としません。むしろ、情報システム、DX、業務改革、新規事業、人材育成、顧客体験、組織変革などに関心を持ち、自社や自身の現場において「AIをどのように価値創造につなげるか」を考えたい方を対象とします。基本的なビジネス課題の理解、業務プロセスへの関心、AIやデジタル技術に対する基礎的な問題意識があれば参加可能です。事前に、自社や所属組織における課題、顧客や社員の困りごと、AI活用に関する関心テーマを一つ持って参加することを推奨します。講座では、正解を教わるのではなく、受講者同士で対話しながら、自ら問いを立て、仮説をつくり、構想へと高めていく姿勢が求められます。

■ 学習設計(内容と時間の対応)

回	学習内容	時間(分)	種別	備考
1日目 事前学習	インテントAIの基本概念を理解するため、事前資料を読み、自社や自身の業務における「人の意図」「満たされていない期待」「変化の予兆」を整理する。AI活用を考える前に、誰のどのような意図を捉えるべきかを考え、当日のワークショップで扱うテーマ候補を準備する。	420		
1日目	インテントAIの考え方、DXとの違い、情報システムの進化を講義で学ぶ。その後、ワークショップを通じて、自社・顧客・社員・社会に存在するインテントを発見し、課題ではなく「意図」から価値を定義する。グループ対話を通じて、AI活用の前提となる価値仮説を整理する。	360	対面	
1日目 事後学習	講座全体を振り返り、自身の構想を「目的」「対象となるインテント」「AIの役割」「期待される価値」「次取るべき行動」に整理する。学習内容を自社や自身の業務にどう活かすかを明確化し、実践に向けた小さな一歩を言語化する。	120		

合計		900		
----	--	-----	--	--

■ 参考文献

参考文献・オンライン科目	
--------------	--